

3 展開例（P.20～31）

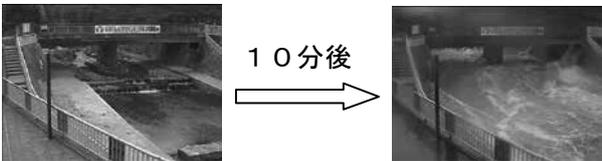
「気象災害」に関する基本的な指導内容【知る・備える・行動する】の多くは、理科や社会、地理歴史等、各教科等の指導内容に含まれていることから、「気象災害」に関する指導は、各教科等の授業の中で【知る・備える・行動する】の内容を意識しながら行うことが効果的である。

あわせて、特別活動の時間を活用し、気象災害の様々な場面を想定して、いざという時に自分の身を守るために正しく判断し行動できるような指導を行うことが必要である。

また、大雨や雷などの気象状況の変化に応じて、帰りの会等の日常の機会を捉え、短時間の指導を行うことも大切である。

ここでは、特別活動及び日常指導を行う際の展開例を掲載している。

No	校種	学年	指導時期	指導場面	指導内容	指導時間数
1	小学校	1年 (全学年 適宜)	大雨や台風時	帰りの会等	あんぜんに、とうげこうしょう (おおあめやたいふうのとき)	(10分)
2		4年 (全学年)	夏に入る前 (4～6月)	特別活動 (学級活動)	おおあめ かみなり たつまき こうどう 大雨・雷・竜巻のときの行動は？	1
3		5年	夏に入る前 (4～6月)	特別活動 (学級活動)	急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう	1
4	中学校	1年	冬期前	帰りの会等	積雪・路面凍結時においても、安全に通学しよう	(15分)
5		2年	夏季休業前	特別活動 (学級活動)	気象情報を自ら活用し、気象災害から身を守ろう	1
6	高等学校	1～2年 適宜	冬期前 スキー研修前	SH、スキー 研修オリエン テーション等	雪山での安全な行動のしかたを知っておこう	(20分)
	その他の事例		総合的な学習の時間等		土砂災害教育プログラム	-

1 小学校 1年生（全学年適宜）					
あんぜんに、とうげこうしょう（おおあめやたいふうのとき）					
指導する学年	1年 （全学年適宜）	指導場面	帰りの会等	指導する時数	（10分）
本時のねらい	大雨や台風時に、安全に登下校するための注意点を知る。				
使用する資料	川の増水の写真（神戸市灘区都賀川） 注意点を書いた用紙（P.21） 注意点の拡大掲示物		基本的な指導内容 大雨・台風による災害 「知る・備える」「行動する」		
	学習内容・活動		指導上の留意点		
1. 現在の大雨や台風の状況を知り、安全に登下校する必要性に気付く。		<ul style="list-style-type: none"> ○学校として、児童に伝える気象情報をあらかじめ確認しておく。 ○自分の命を自分で守ることの大切さを伝え、通学路を安全に登下校するために、普段よりも注意が必要であるという意識付けをする。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">あんぜんに、とうげこうしょう。（おおあめやたいふうのとき）</div>					
2. 登下校の注意点を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ○口頭で伝えるだけでなく、注意点を記載した用紙を配付したり、拡大版を掲示したりして、児童に注意点を印象づける。 ○川の増水の写真を示し、危険をイメージさせる。 			
<ul style="list-style-type: none"> ○1人で登下校しない。家の近い人と一緒に登下校する。何かあったら大人に知らせる。 ○一列で歩く。横に並んで歩かない。 ○決められた通学路を通る。普段と様子がちがいが、危険を感じたら、学校にもどる、または近所の大人に知らせる。 ○川や水路、海、マンホールに近づかない。 ○橋から身を乗り出さない。 ○がけの下には近づかない。 ○地下道やアンダーパスに水がたまっていないか注意する。 ○あわてて走らない。（道路や階段はすべりやすい） ○自動車や自転車の動きに、いつもより注意する。 ○かさをさす場合、前が見えるように持つ。 ○飛んでくる物に注意する。 ○家に帰りついたら家族に知らせる。 ○外に出ないで、家で安全に過ごす。 					
3. 下校の方法を聞き、下校の準備をする。		<ul style="list-style-type: none"> ○登下校の際に注意が必要な場面や危険箇所を具体的に例示しながら説明する。 ○雨の時は注意が散漫になり、交通事故に巻き込まれやすいことを伝え、十分に注意するよう促す。（まわりが見えにくい、音が聞こえにくい、道路がすべりやすい、かさに気をとられ足元がおぼつかない、自動車の運転者の視界がせまくなり気付かれにくい等） ○状況によっては、下校の方法を指示する。（集団下校、保護者への引き渡しなど） ○教員は児童の安全確保に努め、学校体制を確認しながら、下校引率指導や巡回指導にあたる。 ○保護者に下校の方法を連絡し、児童の下校の確認を依頼する。 			
関連する教科・行事等	特別活動（児童会活動）：「地区別子ども会」「地区別集団下校」等				

大雨や台風時における登下校の注意点(例)

安全に、登下校しよう。(大雨や台風の時)

【気をつけること】

○1人で登下校しない。家の近い人と一緒に登下校する。何かあったら大人に知らせる。

○一列で歩く。横に並んで歩かない。

○決められた通学路を通る。普段と様子がちがひ、危険を感じたら、学校にもどる。または近所の大人に知らせる。

○川や水路、海、マンホールに近づかない。

○橋から身を乗り出さない。

○がけの下には近づかない。

○地下道やアンダーパスに水がたまっていないか注意する。

○あわてて走らない。(道路や階段はすべりやすい)

○自動車や自転車の動きに、いつもより注意する。

○かさをさす場合、前が見えるように持つ。

○飛んでくる物に注意する。

【家に帰ったら】

○家に帰ったら家族に知らせる。

○外に出ないで、家で安全に過ごす。



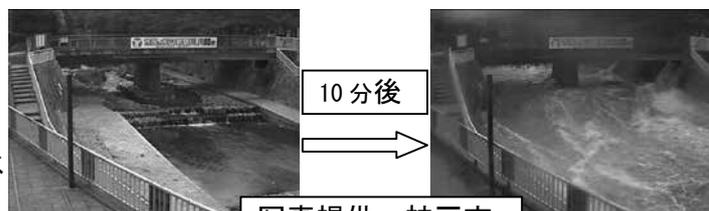
《指導上の留意点》

* この内容は、大雨や台風時に2年生以上でも発達段階に応じて指導する。その際、高学年の児童にはリーダーとなって、下級生が安全に登下校できるよう配慮することを指示する。特に、マンホールやアンダーパス等の低学年が気づきにくい危険箇所を注意を払うこと、大雨の時は交通事情が悪く、自動車の運転者もこちらに気づきにくいこと等を伝える。

* 翌日の登校では雨や台風がおさまっていても、河川の増水や道路の浸水、暴風による飛来物の散乱等の危険が考えられるので、油断することなく注意しながら登校するように指導しておく。

《資料紹介》

右の写真は、川が短時間で増水することを印象づける資料となる。(神戸市灘区都賀川の増水 P.37 に掲載)



2 小学校 4年生（全学年）

おおあめ かみなり たつまき
大雨・雷・竜巻のときの行動は？

指導する学年	4年（全学年）	指導場面	特別活動 （学級活動）	指導する時数	1時間
本時のねらい	大雨や雷、竜巻等の気象災害から、自分の命を守るための方法について理解し、安全に行動しようとする意欲をもつ。				
使用する資料	文部科学省DVD教材 「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」 （平成25年3月）（小学校に配布）			基本的な指導内容	
				大雨・台風による災害、土砂災害、 突風・雷による災害 「知る・備える」「行動する」	

学習内容・活動

指導上の留意点

事前指導（帰りの会等）

大雨や雷、竜巻等の気象災害について知る。

○気象災害の事例を紹介し、日常生活でも気を付けるように注意喚起する。

導入

1. 学習課題を知る。



【安全に通学しよう(DVD)】



【安全に通学しよう(DVD)】

○大雨や雷、竜巻の写真（「安全に通学しよう」自然災害資料編より）を提示し、気象災害のイメージをもたせるとともに、自分の経験や知識と結び付けて学習の動機付けを図る。
○自分の命を自分で守ることの大切さを伝える。

おおあめ かみなり たつまき
大雨・雷・竜巻のとき、どのような行動をとればよいのだろう。

展開

2. 「大雨のとき」のVTR（2分10秒）を視聴し、危険箇所や注意点を確認する。

- ・土砂災害の前兆→山やがけに近づかない。
- ・地下街や地下道、アンダーパスには近づかない。
- ・川や用水路に近づかない。

○被害状況の写真等でVTRを一旦停止し、説明を加えたりどのような危険があるかを予想させたりしながら、危険予測能力を養っていく。
○土砂災害発生危険箇所や地下道、川や用水路等、注意しなくてはならない所を通学路や校区にあてはめて考えさせる。

3. 「雷のとき」のVTR（47秒）を視聴し、適切な避難の仕方について話し合う。

- ・頑丈な建物に避難する。
- ・姿勢を低くする。

○直撃雷を受けると、80%が命を落としてしまうことを伝える。
○VTRには出てこないが、樹木の下で雨宿りすると側撃雷の危険性があることを教える。（P.51参照）

4. 「竜巻のとき」のVTR（1分25秒）を視聴し、適切な避難の仕方について話し合う。

- ・かべの厚い頑丈な建物に避難する。
- ・一番下の階の部屋に避難する。
- ・窓から離れたところで頭をかかえ姿勢を低くする。

○高知県でも竜巻が多く発生していることや被害の状況等を伝える。（P.50参照）
○竜巻を見続けることは絶対にしないこと、すぐに避難することを強調する。

5. 大雨や雷、竜巻は積乱雲（入道雲）がもたらすことを知り、積乱雲が近づくサインがあ

○積乱雲の写真を提示し、積乱雲を見たことはないか、近づくサインを感じたことはないか

ればすぐに安全な場所に避難する必要性を知る。

- ・真っ黒い雲が近づいてきた。
- ・雷の音が聞こえてきた。
- ・急に冷たい風が吹いてきた。

まとめ

6. 学習のまとめをし、大雨・雷・竜巻が起こったときに実践することや気を付けたいことを発表する。

大雨・雷・竜巻のときは、すぐに危険な場所から離れ、安全な場所に避難する。

問い、学習を実際の生活経験に照らし合わせる。



積乱雲 【安全に通学しよう (DVD)】

○学習を振り返り、今後の自己の行動目標を立てさせる。4年生以上は、下の読み物資料(例)を読む時間を設け、学習の定着を図る。

読み物資料(例)

積乱雲には気をつけて!

こんな変化を感じたら、それは積乱雲(入道雲)が近づいてくるしるしです。まもなく、激しい雨がやってくる。たつまきがおそってくるかもしれません。

真っ黒い雲が近づいてきた 雷の音が聞こえてきた 急に冷たい風が吹いてきた

すぐに危険な場所からはなれ、安全な場所にひなんしましょう!

まよっている時間はありません。「自分は大丈夫!」「怖くない!」という気持ちはずべて、すぐに危険な場所からはなれましょう。お父さんやお母さんにも声をかけて!

通学路の歩道や車道は、歩行者や車の通行が妨げられ、危険です。

公園や広場、屋外施設は、雷や竜巻の被害を受けやすくなります。

車内は、雷や竜巻の被害を受けやすくなります。車から降りて安全な場所へ避難してください。

建物の中は、エレベーターや階段は避けてください。窓ガラスは割れる可能性があります。

避難場所(地下鉄、地下道、地下駐車場のほか)は、雷や竜巻の被害を受けやすくなります。避難の際は、避難指示に従ってください。

たつまきが近づくと、いろいろな物が超スピードで飛んできます。人や車も飛ばされます。じょうぶな建物へひなんして!

評価

大雨や雷、竜巻からの適切な身の守り方を理解している。

気象庁が発行しているリーフレット等に、具体的な身の守り方について記載されているので、授業に活用できます。



気象庁マスコットキャラクター「はれるん」

「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう!」(気象庁リーフレット 平成25年2月)より抜粋 (<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

事後指導(朝の会や帰りの会等)

大雨・雷・竜巻に直面した後、自己の行動目標(身の守り方)の達成状況を振り返る。

○気象災害から自分で身を守ることの大切さを改めて考えさせ、自己評価させる。

《指導上の留意点》

- * この学習は4年生の展開例として紹介しているが、全学年において繰り返し指導することにより、日常に起こりうる気象災害に備えて大雨・雷・竜巻からの身の守り方を、児童が確実に身に付けることが大切である。5年生については、理科の学習と関連させながら、さらに詳しく指導する(P.24参照)。また、本展開は、積乱雲が急発達しやすい時期でもある夏に入る前(4~6月)や夏休み前に実施することが望ましい。
- * 低学年の学習では、「安全に通学しよう~自分で身を守る、みんなで守る~」(文部科学省DVD教材 平成25年3月)の「災害安全(防災)1~3年」のVTRチャプターを、高学年の学習では、「災害安全(防災)4~6年」のVTRチャプターを使用するとよい。

《資料紹介》

- * 以下の気象庁発行リーフレットに、詳しく解説している。リーフレットは、気象庁HPからダウンロードできる。 (<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)
「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう!」(気象庁 平成25年2月)
「急な大雨・雷・竜巻—ナウキャストの利用と防災—」(気象庁 平成25年6月)

関連する
教科・行事等

5年理科:「天気の変化」
5年学級活動:「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」

3 小学校 5年生

急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう

指導する学年	5年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1時間
本時のねらい	「急な大雨」「雷」「竜巻」によって起こる災害の危険性を理解し、適切な身の守り方を考える。				
使用する資料	総務省消防庁「チャレンジ！防災48」【積乱雲・雷・竜巻の写真】 発達した積乱雲による災害・事故防止啓発映像DVD 「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」気象庁（平成25年7月）（小・中・高・特支に配布）		基本的な指導内容		
			大雨・台風による災害 突風・雷による災害 「知る・備える」「行動する」		

学習内容・活動	指導上の留意点
---------	---------

事前指導（理科）

積乱雲の形や特徴を知る。

○積乱雲はいわゆる入道雲で、急な大雨を降らせる雲であることをつかませる。

導入

1. これまでに経験した急な大雨、雷、竜巻について話し合う。



【チャレンジ！防災48（積乱雲・雷・竜巻の写真）】

○児童が想起しやすいように、積乱雲（急な大雨）、雷、竜巻の写真を提示する。
○急な大雨、雷、竜巻の児童の体験談や県下・地域で最近起きた災害事例を話題にすることで、学習の動機付けを図る。

急な大雨・雷・竜巻から身を守る方法を考えよう。

展開

2. 【急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう】「これはあぶない！被害編」DVDを視聴し、大雨・雷・竜巻によって起こる災害の危険性をつかむ。



【急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！（DVD）】

○視聴する前に、「どんな災害に巻き込まれるか、どんな危険が迫ってくるか」に着目して見るよう助言する。
○映像の子どもたちがなぜ被害にあったのかを問い、身の守り方についての思考につなげる。

3. それぞれの危険性に対して、どのような行動をとればよいかを話し合う。

◇予想される児童の反応

- ・「急な大雨」天気予報に注意をしておく、増水の危険性を感じて川から離れる、道路の浸水の前に早めに家に帰る等
- ・「雷」木の下に避難しない、家の中に避難、金属を外す、携帯電話をかくす、物陰にかくれる等
- ・「竜巻」家の中に避難、車に避難、どこかにつかまる等

○映像の子どもたちがどうすれば被害にあわずにすんだのかを問い、身の守り方について考えが深まるよう支援する。
○ペア対話やグループでの話し合いを取り入れ、各自が考えたことを表現できる場を保障する。
○ここでは間違っている行動や発想がでてでも否定しない。出てきた意見を板書しておき、次の活動につなげる。

4. 【急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう】「これなら安全！解説編」DVDを視聴し、大雨・雷・竜巻から身を守る方法を確かめる。

- ・「急な大雨」むやみに外に出ず建物等安全な場所に避

○安全行動のポイントとなるところで映像を一旦停止し、適切な身の守り方について思考する場をもつ。
○3の活動で自分たちが考えた身の守り

難。水辺からすぐに離れる。地下ではなく1階以上に避難。

- ・「雷」雷鳴が聞こえたらすぐに避難。しっかりした建物や自動車に避難。木や電柱から4m以上離れる。
 - ・「竜巻」頑丈な建物の中に避難（車庫、プレハブへの避難は危険）。屋内でも窓や壁から離れる。頑丈な机の下に入り、頭と首を守る。
- 屋外活動の前には、天気予報をチェックする。
○積乱雲が近づくサインがあれば、すぐに避難する。
○もしものときに避難する場所を家族に伝えておく。

方が適切な方法だったかを検証する形で学習を展開していく。また、考えつかなかった方法については知識として残るように明確に板書に表していく。

- 実験映像からわかることを行動の根拠としておさえさせ、知識と行動を結び付ける意識付けをする。
- ・川の増水の映像
- ・側撃雷の実験映像
- ・竜巻の威力実験映像

まとめ

5. 学習のまとめをする。

○児童の言葉からまとめるようにする。

急な大雨や雷、竜巻を引き起こす積乱雲の近づくサインがあれば、すぐに危険な場所から離れ、安全な場所に避難する。

6. 大雨・雷・竜巻が起こったときに実践することや気を付けたいことを書き、発表する。

○書いたことを今後の自己の行動目標とし、いざというときに実践するよう助言する。

○「自分は大丈夫」「自分だけ恥ずかしい」などの気持ちを捨てて本気で行動することが大切であること、その行動は自分だけでなく他の人を助けることにもつながることを補足する。

★(家庭学習)「気象防災ワークシート」(【急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう】DVD内)

○本時の学習を振り返り、知識と身の守り方の定着を図る。

評価

「急な大雨」「雷」「竜巻」からの適切な身の守り方を考えている。

事後指導(朝の会や帰りの会等)

大雨・雷・竜巻が起こった後、自己の行動目標(身の守り方)が達成できたかどうかを振り返る。

○自己の行動目標の記述内容を見直させ、できたことを賞賛し、できなかったことを次の場面では必ず改めるように助言する。

《一口メモ》

* 春から夏にかけては、学校や家庭において児童が屋外で活動する機会が増える。この時期は積乱雲が急発達しやすい時期でもあるので、本授業は夏に入る前(4~6月)や夏休み前が望ましい。また、日常生活の中で急な大雨、雷、竜巻の気象現象が起こりそうなときは、この学習内容を発達段階に応じて繰り返し指導することも必要である。

《資料紹介》

* 以下の気象庁発行リーフレットに、詳しく解説している。リーフレットは、気象庁HPからダウンロードできる。(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html)

「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」(気象庁 平成25年2月)

「急な大雨・雷・竜巻—ナウキャストの利用と防災—」(気象庁 平成25年6月)

関連する
教科・行事等

5年理科:「天気の変化」「流水の働き」
全学年 帰りの会等での日常指導「大雨・雷・竜巻のときの行動のしかたは？」

4 中学校 1年生					
積雪・路面凍結時においても、安全に通学しよう					
指導する学年	1年	指導場面	帰りの会等	指導する時数	(15分)
本時のねらい	積雪・路面凍結によって起こる危険性を理解し、交通事故に注意して安全に通学しようとする意欲をもつ。				
使用する資料	配布資料:「積雪・路面凍結時に安全に通学するために」(P.27)			基本的な指導内容	
				大雪による災害 「知る・備える」「行動する」	
学習内容・活動			指導上の留意点		
1. 学習課題を知る。			○積雪・凍結による交通事故やヒヤリハットの体験をしたことがないか問いかけ、学習の動機付けを図る。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">積雪・路面凍結時においても、安全に通学しよう。</div>					
2. 積雪・路面凍結時における危険性を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・雪に不慣れな地域では、わずかな積雪でも歩行者の転倒事故が急増する。 ・積雪や凍結による転倒事故は、頭部を強打し命にかかわることもある。 ・積雪路面での車の停止距離は、乾燥した舗装道路に比べて3倍以上になる。 ・積雪や路面凍結が起こりやすい気象条件、危険箇所がある。 (P.27参照) 			○比較的雪に不慣れな高知県では、交通障害が起こりやすいことを説明する。 ○十分に注意していても、路面が凍結している状態では転倒のリスクはゼロにはならないことを、生徒の経験から連想させる。 ○こちらが気を付けていても、車や自転車等が通常の運転ができずに事故に巻き込まれることがあることに気付かせる。		
3. 安全に通学するための注意点を話し合い、確認する。			<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>写真提供： 国土交通省 四国地方整備局 中村 河川国道事務所</p> </div> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報、気温、凍結注意の気象情報等を活用する。 ・普段よりも早めに行動を起こし、時間に余裕を持つ。 ・底面の凹凸がしっかりとある、滑りにくい靴を履く。 ・転んでも衝撃を和らげるよう帽子・手袋・厚手の防寒着を着用する。 ・歩幅を小さく、足を路面に垂直に降ろし、腰を落として、ゆっくり歩く。 ・少しでも危険を感じたら、自転車に乗るのをやめる。 ・車のタイヤが滑って止まりにくいので、普段より車の動きに注意する。 </div>					
4. 積雪・路面凍結時においても安全に通学するために、気を付けたいことを発表する。			○ペア対話をさせたり書かせたりすることで、全員が自分の考えを表現できるようにする。		
関連する教科・行事等		日常の安全指導			

【積雪・路面凍結時に安全に通学するために】

(その1) 事前に気象情報をチェック (天気予報、気温、凍結注意の気象情報等)



写真提供：国土交通省四国地方整備局
中村河川国道事務所

天気予報や気温を
チェックする時は

高知県の天気予報

ここをクリック！

気象情報 (凍結注
意等) をチェック
する時は

気象情報

ここをクリック！



高知地方気象台HP

(<http://www.jma-net.go.jp/kochi/>)

(その2) 滑りやすい場所はココ！

- ・ 坂道、橋の上、高架橋、トンネル出入口、日陰部分等、凍結しやすい場所
- ・ 横断歩道 (横断歩道の白線部、横断歩道と歩道の境目)
- ・ 車の出入口のある歩道 (住宅や店舗の入口やガソリンスタンド等の車の出入口のある歩道)、バスやタクシーの乗降場所、タイル張りの所



資料提供：
ウインターライフ推進協議会

(その3) 安全に通学するコツ！

- ・ 普段よりも早めに行動を起こし、時間に余裕を持つ。
- ・ 底面の凹凸がしっかりとある、滑りにくい靴を履く。
- ・ 歩幅を小さく、足を路面に垂直に降ろし、腰を落として、ゆっくり歩く。
- ・ 少しでも危険を感じたら、自転車に乗るのをやめる。
- ・ 車のタイヤが滑って止まりにくいので、普段より車の動きに注意する。

《指導上の留意点》

* この学習は、積雪・凍結に備えて冬期前に実施することが望ましい。積雪や路面凍結時においても、普段の通学での交通安全マナーや危険予測能力が基本となることをおさえておく。

5 中学校 2年生

気象情報を自ら活用し、気象災害から身を守ろう

指導する学年	2年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1時間
本時のねらい	気象情報（注意報・警報・特別警報、ナウキャスト等）を自ら活用し、正しくとらえ、気象災害から身を守るための適切な避難のしかたを理解する。				
使用する資料	「政府インターネットテレビ」 (http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8294.html) 「命を守るために知ってほしい 特別警報」 (気象庁リーフレット 平成25年) 「急な大雨・雷・竜巻—ナウキャストの利用と防災—」 (気象庁リーフレット 平成25年6月)			基本的な指導内容 大雨・台風による災害、土砂災害、突風・雷による災害 「知る・備える」「行動する」	

学習内容・活動

指導上の留意点

事前指導 (理科)

積乱雲の形や特徴を知る。

○積乱雲は、急な大雨を降らせる入道雲であることをつかませる。

導入

1. 「特別警報」が発表された気象災害事例の映像を視聴し、もし「特別警報」が発表されたらどのような行動をとるべきかを考える。



【政府インターネットテレビ】

- 映像「政府インターネットテレビ 平成25年8月30日から特別警報がはじまります」の「特別警報ってなんだ？」のセリフで一旦停止し、特別警報が発表されたらどのような行動をとるのか問いかける。
 ○生徒から出された意見に対し、「なぜそのような行動をとるのか」を問い、特別警報に着目させる。

展開

気象情報を自ら活用し、気象災害から身を守ろう。

2. 「注意報」「警報」「特別警報」の意味を知り、「特別警報」が位置付けられた目的をつかむ。
- ・「注意報」 最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備
 - ・「警報」 自治体が発表する避難に関する情報に注意し、必要に応じ速やかに避難
 - ・「特別警報」 非常事態！重大な災害が起こるおそれが著しく大きい
 『ただちに命を守る行動をとる』
 市町村からの避難勧告等に従い、ただちに避難！外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所へ移動
 - ・「特別警報」の情報源（気象庁ホームページ、テレビ、ラジオ、インターネット、広報車、防災無線等）



【特別警報（気象庁リーフレット）】

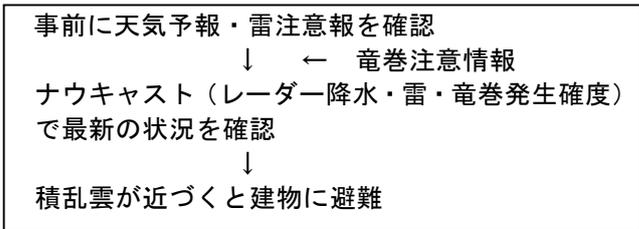
- 生徒の経験や災害事例を引き出しながら、学習内容を板書で整理していく。
 ○「特別警報」が位置付けられた背景を説明し、迅速な避難行動で命を守ることにつなげる目的をつかませる。
 ○「特別警報」が発表されないからといって安心することは禁物であり、早め早めの行動をとることが大切であることを補足する。
 ○避難場所や避難経路を家族が知っているかどうか、地域のハザードマップ等をチェックしたことがあるかどうかを確認し、家族防災会議を促す。

3. 映像の続きを視聴する。

○上記1で一旦停止していた映像の続きを見せ、学習内容を定着させる。

4. 土砂災害に備えるための情報を知る。
- ・「土砂災害危険箇所マップ」（P. 46 参照）
 - ・土砂災害の前兆現象（P. 47 参照）
 - ・「連続して 100mm 以上の雨」「1 時間に 20mm 以上の雨」「大雨注意報」「大雨警報」
 - ・「土砂災害警戒情報」（P. 49 参照）

5. 急な大雨・雷・竜巻から身を守るための情報の活用の仕方を理解する。



6. 気象情報をインターネットで閲覧する。

まとめ

7. まとめをし、気象災害に備えた気象情報活用について、自己目標を立てる。

気象災害に備えて、気象情報を積極的に活用し、気象災害から身を守る行動をとる（適切に避難する）ことが大切である。

評価

気象情報を有効に活用した災害からの適切な身の守り方を理解している。

事後指導（朝の会や帰りの会等）

- 「特別警報」の発表後に、どのような行動をとったのかを振り返る。
- 屋外活動の際に気象情報を活用し、安全に行動しようとする習慣ができていくかどうかを振り返る。

- 自己の行動目標を振り返らせ、できたことを賞賛し、できなかったことを次の場面では改めるように助言する。

《一口メモ》

* 特に夏季休業中は、屋外での部活動やキャンプ、河川や海での活動の機会が考えられるので、本学習は夏季休業前に実施することが望ましい。「特別警報」が発表された時は、避難行動等直ちに命を守る行動をとることが必須となるが、普段の家族での話し合いや備えがあつてこそ迅速に適切な行動がとれることを認識させることが大切である。

* 気象情報を自らが積極的に入手し、身を守る行動につなげることが気象災害時の安全を確保する大切なポイントである。場合によっては、行政の避難勧告や避難指示を待たずに自らの判断で避難行動をとる実践力が求められることを生徒に伝えておく。

《資料紹介》

* 以下の気象庁発行リーフレットに、詳しく解説している。リーフレットは、気象庁HPからダウンロードできる。
(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

- 特別警報について 「命を守るために知ってほしい 特別警報」（気象庁 平成 25 年）
- 「土砂災害警戒情報」について 「大雨や台風に備えて」（気象庁 平成 24 年 5 月）
- 「ナウキャスト」について 「急な大雨・雷・竜巻—ナウキャストの利用と防災—」（気象庁 平成 25 年 6 月）

関連する
教科・行事等

社会（地理的分野）：「自然災害と防災」
保健体育（保健分野）：「自然災害に備えて」

理科（第 2 分野）：「気象とその変化」

6 高等学校 1～2年生

雪山での安全な行動のしかたを知っておこう

指導する学年	1～2年適宜	指導場面	SH、スキー研修オリエンテーション等	指導する時数	(20分)
本時のねらい	雪崩の危険性と雪崩からの身の守り方を理解し、雪山で安全に行動しようとする意欲をもつ。				
使用する資料	「雪崩発生動画」:政府広報オンラインHP 暮らしのお役立ち情報「雪崩から身を守るために」 (http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201311/4.html)			基本的な指導内容	
	雪崩の前兆現象:国土交通省水管理・国土保全局砂防部HP (http://www.mlit.go.jp/river/sabo/nadare.html)			大雪による災害「知る・備える」「行動する」	

学習内容・活動

指導上の留意点

1. 学習課題をつかむ。

- 学習内容が、スキー研修の機会に必要なスキルであること、雪の多い地域に住んだり旅行をしたりしたときにも身に付けておきたい大切な行動の仕方であることを伝え、学習の動機付けを図る。
- 自分の命を自分で守ることの大切さを伝える。

雪山での安全な行動のしかたを知っておこう。

2. 雪上でのケガの防止と安全行動について知る。

- 雪上での基本的な歩き方
 - ・歩幅は狭く、必要以上に足を上げない
 - ・足裏全体を地面につける
 - ・一定の速度で慎重に歩く
 - ・両手はオープンに
 - ・坂道歩行のポイント（上りはつま先、下りは踵の角付けを意識して）
- 立ち入り禁止場所（雪崩危険地帯、クラック（雪の裂け目）等危険を伴う場所）
→指定された行動範囲を守る

- 雪上は滑りやすく、ケガの危険性が高いことに気付かせ、普段とちがう歩き方が必要であることを理解させる。
- 雪崩による遭難事故が発生しやすい状況やクラック（雪の裂け目）等の危険があるからこそ、滑走禁止エリアや立入禁止エリアになっていることを説明する。

3. 雪崩の危険性を知る。

- ・毎年のように死亡事故が発生している
- ・ゲレンデ内でも事故は発生する

- 雪崩による事故事例を紹介する。
(H25. 11. 23 富山県立山連峰真砂(まさご)岳で発生の表層雪崩7名死亡事故等)
- ゲレンデ内でも事故は発生する可能性があるため、油断は禁物であることを伝える。

4. 雪崩の動画を視聴し、特徴を知る。

雪崩発生動画 (29秒)



【政府広報オンラインHP 暮らしのお役立ち情報 雪崩から身を守るために】

- 「表層雪崩」
古い積雪面上に降り積もった新雪の層が滑り落ちる現象。気温が低く、降雪が続く1～2月に厳冬期に多く発生。時速100～200kmと新幹線並で猛烈なスピードで落下し、発生地点から遠く離れた場所まで襲来する恐れがある。

- 雪崩の動画は、「政府広報オンラインHP 暮らしのお役立ち情報『雪崩から身を守るために』」等を活用する。
- 「表層雪崩」と「全層雪崩」の特徴及び「雪崩の起こりやすい場所」について図解で説明する。(P. 55 参照)
- 「表層雪崩」と「全層雪崩」のスピードや規模を話題にし、巻き込まれたら命にかかわる雪崩の危険性をイメージさせる。

○「全層雪崩」

気温の上昇や降水により融けた水で滑りやすくなった地表面上を積雪層全体が滑り落ちる現象。春先の融雪期に多く発生。時速 40～80 km と自動車並のスピードで落下するので発生に気付いてから逃げるのは不可能。

○「雪崩の起こりやすい場所」

- ・急な斜面（傾斜が 30 度以上）
- ・低木林やまばらな植生の斜面

5. 雪崩に遭わないようにするための行動の仕方を理解する。

○「なだれ注意報」を活用する。

雪崩が発生しやすい気象現象が予想される時に「なだれ注意報」が気象庁から発表される。

○雪崩の前兆現象に気付く。

- 「雪尻（せっぴ）」「巻きだれ」「クラック」
- 「雪しわ」「斜面が平らになっている」
- 「スノーボール」

○雪崩の対処法

万一雪崩に巻き込まれた場合

「雪崩の規模が小さいとき」

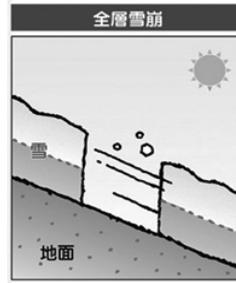
- ・雪崩に対して横方向に逃げる
- ・装備を捨て雪崩の表面付近に浮かび上がるように泳ぐ
- ・雪に埋もれたら、空気を溜めておく空間を口の周りにつくる

「雪崩の規模が大ききとき」

- ・上記の対処は意味をなさない



最も大切なことは、雪崩危険地帯には近づかないこと



資料提供；NPO法人砂防広報センター

○雪崩に遭わないようにするためには、気象情報を活用したり前兆現象に注意したりと、事前に備えることが大切であることを伝える。

○スキー研修時でも、基本は自分で自分の命を守ろうとする態度が大切であることを確認する。

○雪崩の前兆現象は、写真を提示することにより、生徒に印象付ける。（「雪崩防災 国土交通省水管理・国土保全局砂防部HP」より）（P. 56 参照）



（雪尻）



（スノーボール）

○雪崩の対処法を紹介するが、雪崩から逃れることは困難であることを伝え、雪崩危険地帯には近づかないことが最も大切なことを強調する。



（巻きだれ）

写真提供：新潟県

6. 分かったことや気を付けたいことを発表する。

○スキー研修時に、どのようなことに気を付けたいかを表現させ、行動化を促す。

《指導上の留意点》

* 本学習は、冬期前、スキー研修前のSHやオリエンテーションの中に位置付けて実施することが考えられる。本学習内容はスキー研修時だけでなく、雪山登山やウィンタースポーツ、旅行、雪の多い地域に転居時等において、自分で自分の命を守るための大切な知識と行動力であることを伝えておく。

* 雪崩についての情報は、P. 55～56にも掲載している。以下のHPでも検索できる。

国土交通省HP「雪崩防災」(<http://www.mlit.go.jp/river/sabo/nadare.html>)

政府広報オンラインHP 暮らしのお役立ち情報「雪崩から身を守るために」

(<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201311/4.html#anc01>)

関連する
教科・行事等

特別活動（学校行事）：「スキー研修における安全指導」

《その他の事例》

土砂災害教育プログラム

【四万十町立十川小学校の事例】

山間部に位置する四万十町立十川小学校は、土砂災害の発生や、それに伴う孤立が想定される地域にあることから、「土砂災害教育プログラム」を作成し、地域ぐるみの防災学習に取り組んでいる。

地域や行政・専門機関の方々の協力を得て、基本的な知識を身に付ける学習や実際に地域を歩いて調べるなど、体験的な学習を行い、子どもたちの素直な視点で気付いたことをまとめ、地域へ発信している。

こうした学習を通して、日頃から災害に備えることや、いざという時に危険を予測し行動できる力を身に付けることはもとより、地域とのつながりを強める中で、将来の地域の防災リーダーとしての意識を育てることを目指している。

◆知る



土砂災害のメカニズムや前兆現象など、基礎的な知識を体験的に学ぶ。(写真は、がけ崩れを感覚的にとらえる実験の様子)

◆調べる（地域のフィールドワーク）



土砂災害に関する基礎的な視点をもって、危険箇所や過去の災害跡、防災対策された場所等を調査する。地域や行政機関の方、地質の専門家と一緒に地域を歩き、専門的な知見に基づく助言から自分たちの疑問や気づきを確かなものとする。

◆まとめる



フィールドワークで集めた情報や気付いたこと、考えたことを「防災マップ」にまとめ、情報を共有し、さらに課題を絞る。

◆発信する



学習したことを地域に発表したり、「防災マップ」を配付したりすることで、取組を振り返り、自分たちの考えをより深く明確なものとする。